

◆地域活動

魚類養殖指導（沖縄本島北部地区）

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

沖縄本島北部では、陸上養殖で1漁協、海面養殖で3漁協が魚類養殖を実施している。対象魚種は、マダイ・ハマフエフキ（タマン）・スギ・ヤイトハタの4魚種で、それぞれの種苗配布や魚病診断に関する調整、販売促進等を行うことにより魚類養殖業の取り組みを支援することにした。また、クロマグロに関しては魚病診断への対応を行った。

2. 材料及び方法

伊平屋漁協、伊江漁協、羽地漁協、本部漁協において、魚類養殖指導及び各種取り組みへの協力を行った。

3. 結果

魚類養殖については、種苗配布の調整、魚病指導、ワクチン接種試験への協力、講習会の開催等を行なっている。

種苗配布は、ハマフエフキ（タマン）が7月、スギが8月、ヤイトハタが9月、マダイが2月に配布終了し、それぞれの配布についての調整を行った。

株式会社沖明の取り計らいで、水産医薬品メーカーから講師を派遣してもらい魚類養殖生産者講習会を開催した。第1回は、5月16日に本部漁協2階大会議室、17日に普及センター会議室でそれぞれ開催し、バイエル製薬株式会社動物用薬品事業部 横山勝義氏 より「魚類の寄生虫と水産用医薬品の動向」と題して講演して頂いた。第2回は、7月14日に沖縄商工会議所にて、阪大微生物研究所 真鍋貞夫

研究技術部長から「イリド不活化ワクチンを中心にして」と題して水産用ワクチンにつ

いて講演頂いた。第3回は、9月16日に沖縄市産業交流センターにて、あすか製薬株式会社アニマルヘルス事業本部 縄田俊浩氏から「アミノ酸について」と題してアミノ酸の効果やアミノ酸を配合した混合餌料などの紹介があった。アミノ酸が添加されている餌料添加物「ニュートリンクF」についての紹介もあり、マダイで高水温時の斃死を抑制する効果が報告された。

魚病指導は、5月に伊平屋漁協から2面の水槽で大量斃死が発生しているところから魚病検査依頼があった。水研センターの診断の結果、寄生虫、細菌、ウイルス性疾病が確認されなかった。このことから酸欠による斃死の可能性が示唆された。6月13日から14日にかけて伊平屋漁協の陸上養殖施設の10トン水槽24面中で使用されている22面について自動記録式水質計による測定を行い養殖環境を確認した。

12月前半にクロマグロの魚病診断依頼があり、出張中で現場対応できなかったことから直接水産海洋研究センターに検体を持ち込んでもらうことになった。12月21日に大洋エアンドエフ小林氏から再度クロマグロの斃死魚がいるとのことで本部漁協市場で斃死魚の確認を行った。当歳魚1尾、1歳魚2尾であった。水研センターの検診の結果、原因が特定できなかったことから、栄養強化等を指導した。

4. 考察

魚類養殖については、生産に関する指導も重要であるが、販売力の強化に関する取り組みがより重要である。現在、生産に対する指導が主となっており、販売力強化に関する取り組みを十分行えていない。今後、本所の無

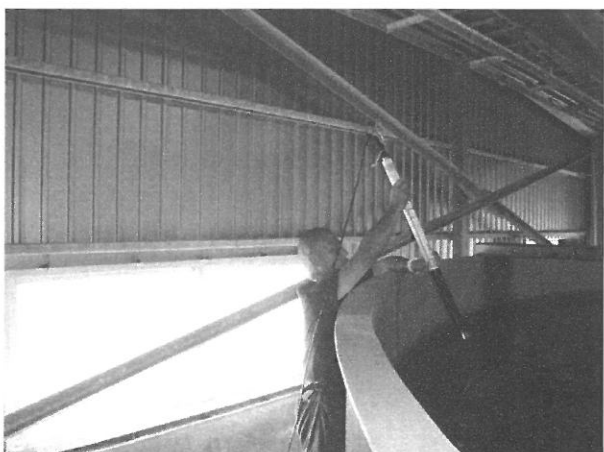
水輸送試験等と連携しながら販売力強化に関する取り組みを強化していきたい。



本部漁協で開催した第1回魚類養殖生産者講習会の様子



普及センターで開催した第1回魚類養殖生産者講習会の様子



伊平屋漁協陸上水槽の水質測定の様子



第2回魚類養殖生産者講習会で講師を務めた阪大微生物研究所真鍋研究技術部長



沖縄市産業交流センターで開催された第3回魚類養殖生産者講習会の様子



講師のあすか製薬 縄田俊浩 氏